OBOGのキャリアデザイン

全羅南道（チョルラナムド）教育庁
順天（スンチョン）高等学校　日本語教師

藤本 己子さん

愛知淑徳大学文学部英文学科第32回卒業（平成21年度卒業）。
愛知県内の私立高等学校から愛知淑徳大学へ進学。在学中は英語や英語圏の文化などを学ぶだけでなく、留学生との交流やオーストラリアでの海外ボランティア、インターンシップ、ボランティア活動にも力を注ぐ。卒業後は愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンターの職員として働いた後、平成24年からは韓国へ。全羅南道（チョルラナムド）教育庁から順天（スンチョン）高等学校に派遣され、日本語教師として生徒の語学力や異文化理解力を育む。

「違い」を理解し合い、共に生きる社会、世界へ。日本語教員として貢献したい。

◆自分らしく生きる尊さを学び、国内外で挑戦を重ねる。

世界に通用する語学力、異文化理解力を身につけたい。その思いのもと、愛知淑徳大学の英文学科に入学しました。世界の人たちとコミュニケーションする"ツール"として英語を身につけるだけでなく、各国の文化や文学なども学ぼうと意欲を燃やしていました。

最も印象に残っているのは、ネイティブ・スピーカーの先生方が行う、個性豊かな授業です。アメリカの歌を歌う、イギリス発祥のラグビーをプレーするなど、さまざまなシーンで「生きた英語」にふれ、各国のありのままの文化や風土も学ぶことができました。また、自然体でいきいきと教壇に立つ先生方の姿を見て、自分らしく生きることの大切さを改めて実感しました。大学の理念「違いを共に生きる」を肌で感じ、その意義を深く考える、貴重な学修ができたと思います。

そして1年次の春休みには、オーストラリアでのボランティア活動に参加し、英文学科で磨いた英語力を活かして異文化交流も実践しました。この経験がきっかけで、以前にも増して自ら行動を起こすようになりました。英語の中学校・高等学校教諭一種免許状取得をめざした教職課程科目や教育実習、インターンシップなど、挑戦を積み重ねるたびに自分の世界が広がっていくことを感じていました。

ボランティア活動に夢中になった、学生時代。在学中から学外のさまざまな人と出会い、多様な価値観にふれ、視野を広げる貴重な経験を数多く得ました。

◆卒業後も自分の可能性に挑み、日本語教師として韓国へ。

学生時代にとくに熱中したのが、ボランティアでした。環境イベント「アースデイ愛知」の実行委員を務めたほか、地域の小学校でも継続的に活動。授業の補助、子どもたちとの交流などに取り組む中で「成長」を後押しする仕事に魅力を感じ始めました。そのため卒業後すぐ、愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンターに勤務。国内外でボランティア活動をした経験や教職に関する学びを活かし、後輩たちのチャレンジをサポートすることに力を注ぎました。また、個人的にもボランティア活動を継続し、2010年には生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に関連した取り組みに参加。自分の可能性に挑み続けていました。

新たなチャンスを手にしたのは、2012年。韓国・全羅南道（チョルラナムド）教育庁の日本語教師採用試験を突破し、順天（スンチョン）高等学校への赴任が決まったのです。

3年目の現在は、第2外国語として日本語を学ぶ2・3年生、計9クラスの生徒たちに、毎週18時間の授業で日本の言葉や伝統文化、今の流行などを教えています。

◆「違いを共に生きる」心を、世界に広げていきたい。

授業で心がけているのは、英文学科の先生方のように、自分の国の「らしさ」をありのまま伝えることです。学生時代に出会ったさまざまな人から学んだ「違いを共に生きる」心を、今度は私が、韓国の生徒たちに手渡していきたいと考えています。その実現のために、授業以外にも「日本語文化理解クラブ」を創設して顧問を務め、さらに、近隣の街で働く韓国人の日本語教師たちを対象に勉強会を開催。より多くの人に日本について知ってもらい、日韓友好の架け橋になれたらと奔走しています。いま、愛知淑徳で学ぶ生徒・学生のみなさんも、「自分らしく生きる道」へ、全力で向かってほしいと期待しています。

竹馬や羽子板など、日本の伝統的な遊びも体験できる授業も行いました。異文化を自分の体と心で楽しむことが、異文化理解の第一歩になると考えています。